

キリスト教保育

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

巻頭言

私の決めるクリスマス

塩谷直也

論説

保育の視点での子ども
の情緒の安定(1)

磯部裕子



2024 DEC. 12

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。

聖書 口語訳聖書・ヨハネによる福音書3章16節

今月の聖句は、短いことばの中に、愛の福音書と言われるヨハネの中心のメッセージだけではなく、新約聖書の全精神を表しており、福音の要約と言われる。

神は、この世（世とは、言い換えれば私たちである）を徹底的に愛しておられる—それが、聖書の大宣言であろう。そこに救いの根源があるのである。神が愛されるこの世は、決して神に愛されるふさわしい清いものではなかった。この世は、全く罪の世であった。創造主なる神を神としてあがめず、自らの腹（欲望）を神とし、自己充足的に生きようとする—その本末転倒によって、人間自身が自ら生み出した力や科学に支配されるという、倒錯をもたらしたことを認めざるを得ない。このような時こそ、過行くことなき神のことばとしての聖書に、正しく聞かねばならないと思う。この罪の世はなぜ滅びないのであるか。神はこの世が滅びることを欲したまわず、どのような犠牲を払ってもこの世を救おうとしておられるからだ、というのである（ヨハネによる福音書3:16b～17）。この罪の世を、神はまた、そのひとり子を賜うほどに、愛しておられる！というのである。人間—この世—の弱さや醜さ、勝手さにも関わらず、この世は神の愛の対象なのである。私たちはこのような世につかわされているのだ。聖書のことばは、単に説教や宣告ではなく、挫折や矛盾の中に生きる私たちの力であり、生命なのである。

罪の世を愛する神の愛！—それは、神ご自身の犠牲なくしては、なし得ぬことなのだ。そのひとり子を賜った（完了形に注意。賜うとは、ひとり子の受肉と十字架の死を意味するのであろう）とはそのことなのである。

「互いに愛し合いなさい」（わたしがあなたがたを愛したように）（ヨハネによる福音書13：34）—ということは、生来の人間にとって道徳的に、直ちに実現できるようなものではない。肉の思いとエゴを持っている私たちにとっては、躓きなのである。このような愛は、神から出たものであり、神のうちに起源を持つのである。神の愛が先行しなければ、人間は神を愛することができないからである。

毎年迎えるクリスマスだが、それは年ごとに新しい喜びの日なのである。クリスマスを迎える喜び、その日を待ち望む心—子どもたちのその素直な、精一杯の喜びと一つ心になりたいと思う。私たちの心の中に（貧しい心の馬屋に）、イエスさまの誕生を迎える—そういう真のクリスマスを、私たち一人ひとりが本当に迎えたいものだ。

（田井中 純作・執筆 時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）

1975年『キリスト教保育』誌12月号より

キリスト教保育

第669号12月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 私が決めるクリスマス 塩谷直也

〈論説〉 保育の視点での
子どもの情緒の安定(1) 磯部裕子

〈小論〉 自然とのふれあい、
自然の中で遊ぶこと 村松亜希子

聖書に聞く・お話 月下星志

【カリキュラム】

12月 月のねがい表

心にとめて 富田恵美子

実践報告 ひかり保育園

実践からの学び 加藤真央

心にとめて 大瀧知子

実践報告 野のはな

実践からの学び 井出孝太郎

子どもと賛美するために

絵本のとびら 永井理帆

私たちの園では 赤坂洋子

〈連載〉 アタッチメント 遠藤利彦

〈連載〉 日々、子どもたちから

学んでいること 齋藤惇夫

目福口福耳福 久保小枝子

礼拝のお話 九貫幸恵

夏期講習会特集

風 柴田俊 編集子 矢部尚子

連盟だより

表紙絵 田中榎子

カット 中畝治子 小鯛みのり 藤安初枝 松成真理子 金井ユリ

42 41 40 39 34 30 29 24 22 21



69 68 59 50 49 46 44